令和元年度

中南の社会教育

子ども・担当者のために
中南教育事務所
学校・地域の応援隊

未来を担う子どもたちを育む社会教育を目指して　～地域で支える家庭教育～

第51回青森県社会教育研究大会

９月６日(金）青森県総合社会教育センターを会場に第５１回社会教育研究大会が開催されました。

開会行事では、永年社会教育委員として御活躍されてきた方々の表彰が行われました。中南からは阿部精一さん（弘前市）が表彰されました。

続いては青森家庭裁判所の主任家庭裁判所調査官である立木昭子氏による「児童虐待と家庭裁判所の関わりについて」と題した講演が行われました。昼のポスターセッションを経て、午後は４つの分科会にて、それぞれのテーマに沿って地域課題解決に向け、熱心に話し合いました。各分科会のテーマは以下のとおりです。

＜第１分科会＞　地域力で家庭教育支援の充実を図る
＜第２分科会＞　子どもの心を育む社会教育
＜第３分科会＞　人財育成は地域の教育力
＜第４分科会＞　現代社会に対する社会教育委員

＜第2分科会＞　子どもの心を育む社会教育

第２分科会では、黒石市社会教育委員の駒井昭雄氏が「子どもの心を育む社会教育」のテーマで家庭教育向上事業について発表しました。

黒石市では平成２３年度から本事業に取り組んでいます。教育委員会が委嘱した１０人の委員による家庭教育推進協議会が事業計画、報告、評価のための会議を行っています。

また、家庭教育講座は開催を希望する保育園、認定こども園、幼稚園、小・中学校等において大学教授やその道の実践家から講話、講演を行っています。大きな特徴は、学校等で講座を行うため、親子がともに学ぶことが出来ることです。参加者からは「家庭教育講座について、即参考になることを学べて良かったです。」「子育てで悩んでいることがあったが、少し安心しました。」等の感想が寄せられ、大変好評なものとなっています。

本事業は、家庭のみならず地域全体で幼児児童生徒の心身の健康状態を把握し、地域で子どもを見守ることの一助にもなっているため、児童虐待早期発見・防止にもなっています。

Index

◎　青森県社会教育研究大会　……1

■　スキルアップ

◎　放課後子ども総合プラン指導員等研修会（後期）　……2
◎　地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム　……2

■　ネットワーク

◎　堀越城秋まつり（弘前市）……3
◎　成人大学「ボッチャ」体験（大鰐町）　……3
◎　ひらかわスポーツフェスティバル（平川市）　……3
◎　収穫感謝祭＆シクラメン市（田舎館村）　……4
◎　地域力向上事業（黒石市）……4

スキルアップ

放課後子ども総合プラン指導員等研修会（後期）9月10日(火)

子どもに起こりやすい怪我や事故への手当と予防

日本赤十字社青森県支部　大石氏・小笠原氏を講師として

後期の研修会は弘前市立中央公民館相馬館長慶閣を会場に「子どもに起こりやすい怪我や事故への手当と予防」と題して、日本赤十字社青森県支部組織振興課の大石敦史会員係長及び小笠原麻美主事を講師として行われました。関節部分の絆創膏の貼り方や、救急救命の方法等についての説明があり、参加者にとって大変有意義な内容でした。また、演習では、簡易の胸骨圧迫のキットやＡＥＤトレーナーを用いて実際に体験しながら、研修内容についての理解を深めていました。アンケートには、「分かりやすい指導で、ＡＥＤの使い方等を改めて確認できてよかったです。」「絆創膏の貼り方など、すぐに実践したいと思います。」等の感想が数多く寄せられ、参加者にとっては十分に満足した研修会となりました。

これからの学びは？　大学入試はどう変わる？10月29日（火）

北陸大学経済経営学部　教授　藤岡　慎二 氏

「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」が県総合社会教育センターで行われました。開会行事に続いて「あおもりキャリア教育応援企業表彰」が行われ、中南地区からは「和電工業株式会社」「社会福祉法人　緑風会」「株式会社　小山内バッテリー」「城東電気株式会社」「幼保連携型認定こども園　堀越こども園」が表彰されました。

続いての講演では「地域連携を生かした主体的・対話的で深い学びをキャリア教育と高大接続・新大学入試改革に活かすには～高校魅力化プロジェクトと社会に開かれた学び～」と題して、藤岡慎二氏が講演を行いました。社会の変化で変わる「求められる学力の３要素」、「高大接続改革」、「新大学入試」の説明に始まり、PBL（地域連携を生かした主体的・対話的学び）の有効性について多数の事例をもとに聞くことができました。地域課題を地域人材が解決していく手法は社会教育に携わる私たちにとって大いに参考となるものでした。

【問い合わせ】中南教育事務所　主任社会教育主事　古川　和生　電話　0172-32-1137（直通）　FAX　0172-36-6584

事業訪問 ネットワーク

中南教育事務所では各市町村の事業を取材し、情報の共有及びネットワークづくりを支援しています。

堀越城秋まつり(弘前市)　9月29日（日）

絶好の秋晴れの下、堀越城秋まつりが開催されました。シンポジウム、ちびっこ探検隊他多数のプログラムの中で、第１回の整備見学ツアーに参加しました。文化財課岩井主幹のガイドは、難しい言葉を平易な言葉に置き換え、軽快な語り口調であったため、とても分かりやすく飽きさせないものでした。約８０名のツアー参加者も熱心に説明に聞き入っており大変満足している様子でした。

ここが魅力

「けの汁ふるまい」では黒石高校調理部の生徒が生き生きと活動していました。また、国道７号線をくぐる東西連絡路には、堀越小学校６年生の児童が作成した壁新聞が展示されており彩りを添えていました。

成人大学「ボッチャ体験」（大鰐町）10月7日（月）

老年期の町民が主体的に学習する機会を設け、生きがいのある心豊かな地域社会の充実を図るため成人大学が行われています。社会教育委員の提案で本年度からボッチャを行うこととしました。予想より多くの申し込みがあり参加者は約２０名でした。お年寄りの方々にも負担の少ない競技であるため、和気あいあいとした雰囲気でゲームを楽しんでいました。一投ごとに歓声がわきあがり、ナイスショットには大きな拍手が、ミスショットには大きな笑い声が会場に響き渡っていました。

ここが魅力

公民館ホールにラインテープで２面のコートをつくり２グループとしたことで間延びすることなくプレーを楽しんでいました。また、午後からの放課後子ども教室で同じくボッチャを行い、子どもたちも大喜びでプレーを楽しみました。

ひらかわスポーツフェスティバル（平川市）　10月14日（月）

「オリンピック競技をみんなで体験しよう！」のモットーのもと「ひらかわスポーツフェスティバル」が開催されました。平賀体育館、平賀屋内温水プール、ひらかドーム、平賀テニスコートの４会場で全２６種目の体験教室等が行われました。特にニュースポーツ種目の充実が目につきました。クロリティ、カローリング、ターゲットボッチャ、車いすバスケシューティングに参加者は積極的に取り組んでいました。この経験がパラリンピックを観戦する目を大きく変えてくれるものと思います。

ここが魅力

ポスター、チラシが工夫されていて、とても目につきやすい素晴らしいデザインでした。また、グラウンドゴルフやゲートボール体験は異年齢交流の絶好の機会となっていました。

【問い合わせ】中南教育事務所　主任社会教育主事　古川　和生　電話　0172-32-1137（直通）　FAX　0172-36-6584

収穫感謝祭&シクラメン市（田舎館村）　11月16日(土)・17日(日)

収穫感謝祭＆シクラメン市が田舎館村役場周辺を会場として行われました。芸能発表会では、子どものピアノ発表に始まり、ダンス、遊戯、舞踊、カラオケ、中国舞拳、津軽三味線と多岐にわたっており出場者は自慢の技を披露し、会場は家族連れで大盛況でした。体育館ではシクラメン市が行われ多数の来場者で賑わっていました。16 日にはゲストを招いての村民パフォーマンス選手権を行うなど、文化祭の枠を超え、多様な楽しみを味わうことが出来る一大イベントとなっています。

ここが魅力

役場周辺には地元グルメを提供する出店が多数出店していました。また、両日にわたってスープ等の無料ふるまいを行っていました。あいにくの寒空でしたが、来場者は身も心も温かい思いで各イベントを楽しむことができました。

地域力向上事業　（黒石市）

活力ある持続可能な地域づくりのために

黒石市では、地域住民が具体的・実践的な企画運営による「特色ある地域活動」を継続するため、地区協議会が先頭に立ち地域各種団体等との協働により、生活や地域課題を解決しようとする気づきの機会を提供することで自治に対する意識の高揚を図ることを目的に地域力向上事業を行っています。年に２地区を選定し年４回の話合いや学習会の場を持っています。本年度は浅瀬石地区と西部地区で行っています。第１回目は地区協議会、各種団体、地域住民、公民館職員、社会教育課員で「地域の問題点」「地域と市が共通する問題点」を洗い出し、整理及び仕分けを行いました。第２回目は「地域の問題点に対する原因や打開策等を探り合いました。第３回目では解決策について具体的に「どのようにすればよいか」を話し合い今後の方向性をまとめました。第４回目は外部講師による講演を通して自治意識の高揚を図る予定です。地域が変われば問題点も様々です。２地区の問題点は以下の通りです。

＜２地区の主な問題点＞

① 浅瀬石小学校閉校に伴い、学校跡地をどのように利活用していくのかを検討し、浅瀬石地区としての考えをまとめていく必要があるのではないか？
② 各種団体の会員の減少、後継者不足、組織の多さやイベントの重複などで、今後の行事の取り組みが困難になってくるのではないか？
③ 災害（地震・台風）などに対する地区住民の危機管理意識が低い。突発的に発生する災害の備えとして、避難訓練や備蓄などが必要ではないか？
④ 町内単位の子ども会を存続させるには限界があるので、子ども会の今後について地区で考えていかなければならないのではないか？
⑤ 黒石高校と連携した地域活動を展開していくべきではないか？

ここが魅力

各テーブルに社会教育課職員が配されファシリテーターを務めることで話合いを活性化させていました。また、グループワークは、課題解決の手順を知る絶好の機会となっています。

【問い合わせ】中南教育事務所　主任社会教育主事　古川　和生　電話　0172-32-1137（直通）　FAX　0172-36-6584